

# パースで天文学に触れる

パース市内から東へ 25km 離れた Bickley にある『パース天文観測所』では、南半球やオーストラリアの天文の研究、また一般向けにもその天文についてのツアーを催行し、情報提供を行なっています。その『パース天文観測所』に勤務している天文学者、ラルフ・マーティン氏に、オーストラリアの星空について伺いました。



天文学者  
Acting Government Astronomer

**ラルフ・マーティン氏**  
Mr Ralph Martin

**Q** 西オーストラリアで星空を観ることは何でしょうか。

**A** オーストラリアの夜は比較的に明りも少なく、場所によってはとても暗いので、とてもきれいに空が観えます。特に都心部から離れて、荒野やブッシュに入れば、満天の夜空を観ることができます。また、北半球とは違う星空を楽しめます。



© NASA

**Q** 南半球で観ることができる星座などは、どんなものがありますか？

**A** 長く大きく広がった銀河、天の川には本当にたくさんの星を観ることができます。そしてもちろん、みなみじゅうじ座ですね。しかし、パース市内では過剰照明公害 (light pollution) で観辛くなってきています。みなみじゅうじ座付近の『宝石箱』は、望遠鏡がないと観ることはできないけれど、とてもきれいです。

◀ 宇宙から見た世界の照明公害。日本の光の量がすごいことが伺える。

**Q** 今の時期 (3月頃)、きれいに観える星座は何でしょうか？

**A** オリオン座やプレアデス星団 (おうし座の散開星団) は特に綺麗です。

**Q** 一年を通して、どんな気象状況のときが星座観察に適していると思いますか？

**A** 湿度の低いカラッとした日や寒い日、科学的には夜が長い日が適しています。空気中の水蒸気が少ないと空の透明度が上がるので観やすくなります。個人的には冬の寒い日に観るのが好きです。

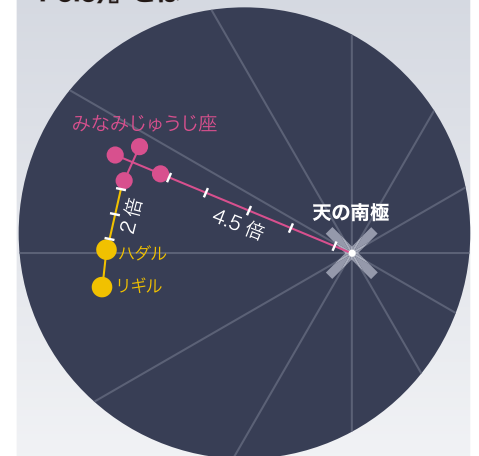
**Q** 星座観測初心者に合った望遠鏡や、簡単に楽しめる方法を教えてください。

**A** パース天文観測所で行なっているツアーでも望遠鏡を使ってツアーを行なっています。望遠鏡を使うと、星団や惑星、月もとてもきれいに観えます。望遠鏡は、使う人の用途や期間を十分考慮して、計画を練ってから購入した方がいいでしょう。また、現在インターネットでは自宅で楽しめるプラネタリウムの無料ソフトなどもありますので、簡単に星空を楽しむことができます。

**Q** みなみじゅうじ座を見つけるコツを教えてください。

**A** 南に見える、ケンタウルス座の明るい2つの星 (『リギル』と『ハダル』) を見つけてください。その2つは『サザン・ポインター』と呼ばれています。2つの星の距離を上にも2倍に伸ばした位置に、みなみじゅうじ座の短辺を作っている2つの星を見つけることができます (右図参照)。ちなみに『天の南極 (The South Celestial Pole)』は、みなみじゅうじ座の長辺を4.5倍伸ばした先にあります。

『天の南極 (The South Celestial Pole)』とは



日本の位置する北半球には『北極星』があり、方角を知ることができますが、南天には『南極星』と呼ばれる星がないため、南の方向を知るには周りの星から推測して『天の南極』を探すことになります。

**Q** 有名な宇宙飛行士であるジョン・グレン氏は、パースのことを『the City of Light (光の都市)』と呼びましたね。

**A** はい。宇宙飛行士の彼が『the City of Light (光の都市)』と呼んだパースで、星空を楽しんでください。

『the City of Light (光の都市)』とは

宇宙飛行士ジョン・グレン (John H Glenn) 氏が、1962年に初めて地球の軌道を回った時、パースの人たちは、グレン氏が海と陸の比が約 8:2 という南半球を夜に通過するのは寂しいだろうと考え、夜も街の灯りを点けて上空にいるアメリカ初の偉業を達成する飛行士を歓迎しました。『the City of Light (光の都市)』とは、グレン氏がパースに付けた名前です。また、グレン氏が1998年に77歳という史上最高齢でスペースシャトルに乗船した時も、パースの住人は灯りを点け、街そのものをライトアップしました。